

22 乳がん検診における受診者心理アンケート調査

丸山記念総合病院

○石鍋 麻実 芦葉 弘志 木村 浩明
伊藤 尚光 佐久名 孝臣 濱守 誠

1. 目的

受診者の心理を知り、乳腺業務の改善を行うことで受診率向上につなげる

2. 方法

2-1 乳がん検診受診者に対し、検査後、第3者(検診室のスタッフ)によりアンケート用紙を手渡して調査を行った。

2-2 無記名方式により回答を記入してもらい、回収箱を設置。

3. アンケート項目

- 3-1 乳がん検診受診回数、当院受診回数、受診理由
- 3-2 接遇(言葉づかい・態度・説明・触れ方・撮影室の雰囲気)
- 3-3 技師の性別
- 3-4 検診実施日
- 3-5 痛み
- 3-6 被ばく

4. 結果

4-1 受診回数は2~4回、受診理由は定期的に受診しているとの回答が最も多かった。当院を選んだ理由では、自宅近いこと・総合病院であり子宮がん検診も受けられることが多かった。

4-2 接遇については、どの項目においても『非常好い』『良い』を合わせて80%を超えた。

4-3 性別については、『女性技師が良い』と『どちらでも良い』がどちらも49%との結果となった(図1)



図1: 技師の性別

4-4 検診実施日は概ね受診者の希望に応えられている

4-5 痛みについては、今までに経験した最も痛かったことを10として、マンモグラフィ圧迫時の痛みを表現してもらった(図2)

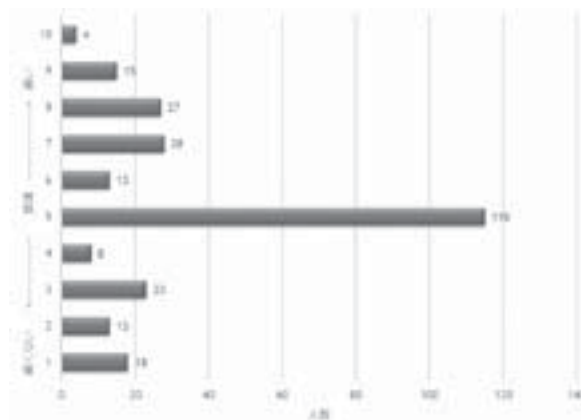


図2: 痛みについて

4-6 被ばくについては、気になると回答した人が60%を占め、気にならないと回答した人は20%だった。気にならないと答えた理由としては、新聞や報道などで知っているが最も多く58%、医療機関で説明を受けた18%となった

5. 考察

病院が自宅から近いこと・定期的に検査を受けていることが受診理由に多く、初診の人は少なかったため、院内ポスターの作製やホームページで乳がん検診を行なっていることをアピールする必要がある。

技師の性別に関しては、安心感や羞恥心から女性技師を望む声も多かったが、丁寧な接遇であればどちらでも良いとの回答も得られたため、受診者は技師の性別よりも丁寧な接遇を期待していると考えられる。

被ばくについては、気にしている人が多いため検査前の説明に加える。

今回のアンケート調査によりわかった受診者心理を今後の当院の乳がん検診業務に反映させ、受診率向上を目指す。